

## 地域の歴史 再発見

# 竹原邨ノ役人開化シテ 当世風ニ散髪シタル図

- 右から
- ① 明治七年更生番号地押帳（田辺組）
  - ② 竹原村旧役人衆容貌写真二御座候
  - ③ 相賀組の旧立会人容貌堂々として  
官員の如き程なり
  - ④ 横枕組旧立会人某野調之図
  - ⑤ 竹原邨ノ役人開化シテ当世風ニ散  
髪シタル図
- 紀元二千五百三十四年（滝ノ谷組）



▶「明治七年更生反別取調」（竹原区蔵）

新・地区展「九重―恵み豊かな里の人々―」の開催時に確認された資料を紹介いたします。

写真は表に「明治七年更生番号地押帳」と書かれた1冊の帳面と裏に絵が描かれた4冊の同内容の帳面です。明治7年作成であることから明治6年から明治政府が実施した土地・租税制度の改革である地租改正の際に竹原村（館山市竹原）で行われた土地調査の記録と考えられます。

絵の上部には、「竹原村旧役人」「相賀組の旧立会人」「横枕組旧立会人」「竹原邨ノ役人」と書かれています。描かれた男性たちは竹原村の調査に関わった旧役人たちです。羽織姿に赤い襟巻（マフラー）を巻いた男性たちは、帳面、コンパス、算盤といった調査に必要な道具を手に持ち、短髪で、帽子をかぶっている人もいます。

「竹原邨ノ役人」の絵の上には、「開化シテ当世風ニ散髪シタル図」と、江戸時代の一般的な髪形の「ちよんまげ」を切り落として「散切り」に散髪した姿であることを説明しています。絵を描いたのは調査を見た村人でしょうか。姿を書き留めてしまいうほど、明治の開化政策を受け入れた「当世風」の姿が珍しかったと思われまます。

明治4年、明治政府は髪形を自由にしてよいとする散髪脱刀令を布告し、明治天皇が明治6年に散髪すると役人を中心に散髪する人が増えたようです。しかし、「当世風」の髪形が一般に広く普及するには時間がかかりました。この絵と添書からは、明治時代初期の村において新しい風習を取り入れる人がいた一方で、江戸文化の名残を留める人も多く残っていた様子がうかがえます。この帳面は新・地区展「九重」の開催後に確認されたため展示していませんが、移り変わる時代の人々の様子を教えてくださいたい貴重な資料です。

新・地区展「九重」は開催すると九重地区内で話題となり、多くの方が見に来てくださいました。地元にもこのような歴史や資料があるのを知らなかったという声があった一方で多くの情報提供もあり、これまで注目されなかった資料の再発見が行われました。

展示で紹介した資料は九重地区に残る資料の一部にすぎませんが、地元での地域資料への関心の高まりは、資料の保存、調査研究、教育活動等の今後の広がりに繋がるものと期待しています。地域の歴史を再発見する新・地区展の次回は館山地区です。お楽しみに。

## 令和3年度の事業から

### 記録を残し、記憶に残る

企画展「よみがえる近代安房の風景

―川名写真館の世界―

市内にあった川名写真館に伝わった大量の写真・文書類などの寄贈を受けてから約6年。ようやく整理が一段落し、皆さんに貴重な資料をご紹介する機会がやってきました。資料総数は8千点以上、ガラス乾板・ネガフィルムや紙焼き写真だけでも5千点を超える中から展示できる資料はごく一部ですが、近代安房の町並みや祭礼の様子、関東大震災の被災状況や、人々の生活などがリアルに伝わる写真を担当学芸員が厳選しました。

「大正時代から昭和前半期の貴重な写真を皆さんに紹介したい」という思いで企画した展覧会でしたが、準備を進めるうちに、川名写真館旧蔵資料は安房地域における写真文化の展開や、当時の写真館の役割を考える上でも貴重な資料群だということが分かってきました。

例えば、川名写真館は名所絵はがきを発行し、夏季には新井海岸海水浴場に出張所を出店していましたが、これは観光地ならではの特徴です。また創業者である川名竹松氏は、写真館経営の傍ら、アマチュア写真家の愛好会を主宰していました。都会から移住した著名人らが撮影した写真もあり、安房の写真文化は観光客や移住者を通じた都会との文化交流を背景に、広まっていったことがうかがえます。

さらに、川名写真館は館山海軍航空隊の出入り写真師を務めたほか、水産講習所（現東京海洋大

学）の実習風景も数多く撮影しています。これらの写真や関連資料は、近代館山の特徴を示すだけでなく、日本近代史においても貴重な記録です。

こうした特色ある資料だけでなく、地域の人々の結婚や卒業などの記念写真も数多く残ります。町の写真館としては、むしろこちらが営業の中心だったでしょう。これらの写真からは、一家（人）に1台のカメラが当たり前ではなかった時代、人生の節目を記録する上で写真館が果たした役割の大きさを知ることができます。企画展の期間中には多くの方から川名写真館の思い出を伺い、皆さんの記憶の中に今も川名写真館が色鮮やかに存在していることを実感しました。

▼昭和初期の川名写真館外観



### 文字の世界を楽しもう

収蔵資料展「楽しいもじ」

私たちの身の回りには、看板や本、商品包装などいたる所に文字があふれています。文字は書かれた内容そのものだけではなく、書体や色、大きさなどによっても多くの情報を伝えていきます。例えば、写真の文字、皆さんはどんな印象を持つでしょうか？ かっこいい、洗練されている、力強い、素朴……など、さまざまな印象を持つと思います。

収蔵資料展では、こうした文字のデザインに注目しました。普段暮らしている町も、文字に注目しながら歩くことで、きっと新たな発見や、興味・愛着が生まれるのではないかと。これが展示の企画意図です。

なお今回の展示では、県立安房高校書道部と千葉大学デザイン文化計画研究室の皆さんにも、文字をテーマにした作品を出品していただきました。前者はさまざまな書体による書の作品、後者は「万祝」型紙に書かれた文字をデータ化した作品と、アプローチの方法はまったく異なりますが、ともに文字の世界を楽しむことができました。



▲(上) 通いどっくり  
(下) 海岸ホテル荷札

寄贈資料一覧 ご協力に感謝します(～R4.2月末)

寄贈資料	寄贈者(敬称略)
作名ダム浄水場完成写真、古文書他	館山市 前田裕子
鎌田家文書・典籍	館山市 鎌田洋司
館山海軍砲術学校関係文書 他	北海道 東乙比古
里見関係書籍	館山市 加藤弘信
仲町山車外幕内幕	館山市 仲町区長
『絵入南総里見八犬伝』、めんこ	館山市 笹子三喜男
小原謹一郎碑	館山市 慈恩院
(埋葬用)輿、渡辺雲洋画花鳥図	南房総市 大徳院
防空壕写真 他	館山市 渡辺法子
軍服(陸軍将校正装) 他	埼玉県 庄司浩樹
絵はがき・写真 他	南房総市 小澤忠雄
古写真	館山市 稲垣祥三
千人針たすき 他	館山市 石井紀子
用筆筒、行李、樹 他	館山市 鳥居釋夫
房州切子	館山市 中村俊一
通い徳利、『シラサギのくらし』	館山市 嶋田輝弥
写真	千葉県 和田春樹
稲葉正巳年頭祝儀礼状	群馬県 宇居弘之助
館山銀座振興会関係文書 他	館山市 館山銀座振興会
オキバコ、タマ、灯籠	南房総市 高山昇一
旧丸本郷村三幣家文書	南房総市 三幣忠男
大井辻井家資料 タブネ 他	南房総市 鈴木金司
板戸(桜山学画)	南房総市 能蔵院
絵はがき 他	館山市 伊藤悦子
早川雪洲画『牡丹』	神奈川県 横山幸子
中山義真作刀	佐倉市 井原重之
石野家文書(卒業証書 他)	館山市 石野裕男
金港堂発行『絵本南総里見八犬伝』見本	東京都 牛米 努
片刃鋸(製材用)	南房総市 渡邊 篤
鏡浦亭手拭 他	南房総市 粕谷新悟
秩父屋商店(南町)資料	館山市 吉野隆志
俳句帳 他	館山市 小柴正典
安房水産高校体操服 他	館山市 山杉博子

ピックアップ八犬伝

英語で八犬伝

“Eight Dogs, Or, Hakkenden” (2021)はオレゴン大学のグリン・ウォーリー (Glynne Walley) 氏によって翻訳された『南総里見八犬伝』の英語版です。「八犬伝」は、日本文学の記念碑的な作品で、多くの人に読まれ、映画・小説・漫画等幅広い展開をしている作品のため、海外でも注目されています。

英語で「八犬伝」がどのように表現されるか少しご紹介します。“The spiritual mother of the Eight Dog Warriors”は誰でしょうか。本や劇で「八犬伝」に触れたことのある人なら簡単ですね。「八犬士」” Eight Dog Warriors”の精神的(霊的)な母といえば「伏姫」”Princess Fuse”です。

それでは、副題の”An Ill-Considered Jest”とは何でしょうか。直訳すると「不適切な冗談」。

物語の序盤、居城を敵に囲まれた里見義実は飼犬の八房に敵将の首を取ってきたら娘の伏姫を嫁にやると言いました。この「不適切な冗談」が実行されたことで、伏姫は八房とともに富山で暮らすことになり、八犬士の誕生へと物語は展開していくのです。



▲“Eight Dogs, Or, Hakkenden”

資料紹介 里見物の読本『櫓沢敵討』

江戸時代の読本のなかに仇討物あだうちものと呼ばれるジャンルがあります。18世紀の初めに歌舞伎で曾我兄弟の仇討ちをテーマにした曾我物が大流行を始めると、読本としても仇討物が出版されるようになりました。ここに紹介する資料は当館が収蔵する『櫓沢敵討』という読本で、天明7年(1787)に書写されたものです。作者も成立年もわかりませんが、慶長期の安房里見氏を題材にした物語です。櫓沢とは相模と駿河の間にある足柄峠を越える矢倉沢往還のこと、そこを舞台とした仇討ち物語になっています。

山口大学図書館の蔵本は『相州櫓沢敵討実録』の表題がつき宝暦11年(1761)に書写されていますが、描かれた里見氏の歴史をみると、江戸初期成立の『北条五代記』や享保期成立の『関八州古戦録』を参考にしているようで、里見氏の軍記物は見ないで書いたようです。

里見氏を題材にした物語は、文化11年(1814)に刊行を始めた曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』が有名ですが、じつは馬琴は八犬伝よりも前に里見氏を題材にした物語を出版しています。『敵討誰也行燈』(文化3年)『梅洪吉兵衛発心記』(文化6年)『皿郷談』(文化10年)はみな里見氏の家臣による仇討ちや里見家再興の物語で、八犬伝の著述以前から馬琴が里見氏に大きな関心を寄せていたことがわかります。

同じ時期の文化8年には、柳亭種彦が『江戸紫三人同胞』という合巻を出版していて、これも里見義実の家臣による仇討ち物語です。意外と里見物と呼べる本が出回っていたようです。





博物館のできごと《ダイジェスト》 令和3年4月～4年2月

- ◆ 令和3年4月
  - 20日 千葉県の一部地域（館山市は範囲外）で新型コロナウイルス（まん延防止等重点措置実施）（～6月20日）。
  - 24日 新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催（～6月27日）。
  - 30日 近代海運記念碑受贈式。屋外展示場にて公開。
  - ◆ 6月
    - 15日 歴史教室「古文書を読んでもみよう」開催（～令和4年3月、4クラス各8回、8・9月は延期）。
- ◆ 7月
  - 10日 収蔵資料展「楽しいもじ」開催（～9月18日）。
  - 18日 千葉大連携ワークショップ「型紙で遊ぼう」もじ編（～）開催。
  - 29日 博物館・図書館合同事業「なつやすみ宿題大作戦」開催。
  - ◆ 8月
    - 26日 大学生による学芸員資格取得のための実習。3回に分けて実施。1回目（～）
- ◆ 8月3日。
  - 5日 博物館・図書館合同事業「なつやすみ宿題大作戦」開催。
  - 27日 水中遺跡調査検討委員会による「水中遺跡ハンドブック」作成のための調査対応。
  - 29日 渋沢栄一のパネル展延長（～12月26日）。
  - 30日 館山城の常設展示を一部入替え。
  - ◆ 9月
    - 7日 大学生による学芸員資格取得のための実習。2回目（～9月16日）。
    - 8日 和歌山県立紀伊風土記の丘ヘイソガネ等貸出（～12月16日）。
    - ◆ 10月
      - 4日 屋上防水改修工事（～1月14日）。
      - 18日 大学生による学芸員資格取得のための実習。3回目（～10月22日）。
      - 20日 国立歴史民俗博物館による資料の複製制作のための調査対応。
      - 22日 NHK総合 ひるナマ！北海道にて当館の「おうちミュージアム」紹介。
      - ◆ 11月
        - 6日 新・地区展「九重―恵み

- ◆ 12月
  - 21日 豊かな里の人々―開催（～12月28日）。
  - 21日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪―蘭・二子―」開催。
  - ◆ 12月
    - 21日 県立中央博物館へ万祝等貸出（～6月1日）。
    - 22日 市立九重小学校6年生が新・地区展「九重」を見学。博物館大掃除。
    - 28日 令和4年1月
      - 1日 館山城正月臨時開館（～3日）。
      - 3日 国立劇場「通し狂言南総里見八犬伝」へ八犬伝関係画像等提供。
      - 21日 千葉県全域で新型コロナウイルスまん延防止等重点措置実施（～3月21日）。
      - ◆ 2月
        - 5日 企画展「よみがえる近代安房の風景」開催（～3月21日）。
        - 9日 博物館協議会（書面開催）。



令和3年度古文書講座

たてはく 日々コラム ～館山市立博物館（たてはく）の日々のできごとを紹介します～

博物館の動画配信

令和3年度は前年に続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に力を入れた一年でした。来館者の皆様には、マスクの着用、手指のアルコール消毒等ご協力いただきありがとうございました。博物館では展示室内の定期消毒、トイレ手洗いの自動水栓化等感染対策に取り組むとともに、密を避けるため状況によって事業の変更や人数制限を行ってきました。感染者が増え、まん延防止等重点措置が発令されるたびに、小学校等団体の見学をキャンセルする連絡があり、残念な気持ちになりましたが、まだまだ油断できないと気を引き締めています。

さて、館山市立博物館ではコロナ禍の中でできることはないかと、自宅で「博物館」を楽しめる方法

を探っています。

そのひとつが昨年度から取り組んでいる展示の動画配信です。ただし、動画作成の経験がある職員はほぼいません。資料の魅力をわかりやすく伝えるにはどうすればよいか、展示を担当する学芸員と動画の担当者が試行錯誤しながら作っています。

博物館の動画は館山市公式 YouTube から見ることができます。ぜひご覧ください。

